

# ◇調査・研究事業：コンサルティング・コーチング研究会 中小企業経営者の理解深化による業務の質的向上

## 1. 事業の背景・目的

平成29年度の調査研究事業として「クライアント(中小企業経営者)の理解深化による、経営診断・支援事業の質的向上」に取り組みました。

コンサルティング・コーチング研究会(以下、当研究会)の掲げるパートナー型コンサルティングにおいては、経営課題解決のカギは経営者自身のなかにあると考えており、所期の成果を挙げるためには、経営者の理解を表面的なものにとどめず、より深いものにする必要があります。

またその一環として、われわれの業務が支援機関にどのように受け止められているか、自らを振り返ることが重要と考え、自身に対する客観的理解を確認することといたしました。自分たちの経験にとどまらず、歴史に学ぶことも必要です。

さらに、来るべきAI時代に備え、経営者がどのような環境に置かれるか、その時点での我々の経営者理解をどうしたらよいかについても、想定・考察を行うことといたしました。

## 2. 実施内容

### (1) アンケート実施

県内の全商工会議所・商工会、提携先金融機関を対象にアンケートを実施し、診断士の業務に対するコメントをいただきました。

### (2) ヒアリング実施

商工会議所・商工会の紹介その他により、中小企業経営者のヒアリングを行い、経営者の多様性に関する理解の深化を試みました。

### (3) 先人たちに学ぶ(社会科学的考察)

文化人類学や先人達からの教えに関する考察を行い、経営者(人間)への理解を深める一助とすることを試みました。

### (4) AIと経営者

AIの普及に伴い、経営者の役割はどう変わるか、それに伴い診断士はどのような役割発揮が必要になるか、想定を試みました。

### (5) 提言

これまでの経営診断業務の現状・課題を把握し、その改善のためのパートナー型コンサルティングの提言を行いました。

## 3. 報告書目次

<b>第1章： 現状把握</b>
商工会議所アンケート 提携記入機関アンケート 経営者ヒアリング(含グリットスケール分析)
<b>第2章： 先人たちに学ぶ</b>
アレクシス・カレル
<b>第3章： 診断士を取り巻く環境変化</b>
我国経済・社会環境 中小企業診断士の現状 AIに関する考察
<b>第4章： パートナー型コンサルティングに関する提言</b>
コンサルティングの現状と課題 パートナー型コンサルティングの提言

## 4. セミナー内容

日時:平成30年3月24日(土)

場所:埼玉会館2階ラウンジ

内容:

- ①基調講演  
経営支援に求められる人間力  
講師:日本経営道協会  
代表 市川覚峯
- ②調査研究事業報告  
コンサルティング・コーチング  
研究会
- ③懇親会



## 5. その他

商工会議所・商工会を対象としたアンケートでは、中小企業診断士は、クライアントや支援先企業の経営者をよく理解していない、自分の考えを押し付ける、成果物が不十分等、辛口なご指摘を受けました。

また、経営者ヒアリングでは、経営者の関心事、充実感、あるいは経済社会動向に関する認識等に関し、様々な考えを有することが分かり、改めてその多様性を認識させられました。

さらに先人たちの著作や言葉から、人間を理解するということが、一番基本的命題でありながら、いかに難しいものであるか、大事なものは経営者を分かったような気にならず、これからもずっと追い求めることであると実感させられました。

AI時代になっても、経営という業務は機械に置き換わられる存在ではなく、あくまでも人間が主体的に関わる分野であるとの見通しを得るに至りました。

当研究会は今回の調査研究活動により、経営者の理解深化の入り口に立ったとの思いで、これからも真摯に経営者への理解を深めるを通じ、パートナー型コンサルティングの質の向上を目指します。

### パートナー型コンサルティング・プロセス図

